

白神山地世界自然遺産登録25周年記念 春の白神ウィーク開催 ～ここは森好きが育つ場所～



ブナの森を想い苗木を植樹



新緑のブナ林でのプレミアムライド

今年12月に世界自然遺産登録25周年を迎えることを記念して開催された「春の白神ウィーク」が6月10日～17日、「ここは森好きが育つ場所」をテーマに開催されました。10日に行われたオープニングイベントでは、佐々木町長が町の歩みをブナの成長になぞらえ「この25年間は地力を蓄える時間でした。遺産登録にご尽力された多くの先輩、バトンを受け継ぎ奮闘する諸氏の努力が実を結び大地に零れ落ちるのはこれから。『森好きが育つ場所』を目指した新たな始まりを宣言します。」とあいさつがありました。その後行われた自転車で行く「岳岱プレミアムライド」やブナの苗木の植樹を皮切りに、16・17日にはトークセッションやシンポジウム、ワークショップ、音楽ライブなど様々なイベントが行われ、来場者は思い思いに春の白神の魅力に触れていました。

白神山地フォレストトークデイ ～森の未来について考える～

6月16日に行われた「白神山地フォレストトークデイ」では、遺産センター記録写真展を監修した鎌田孝人さん（荒町）による「白神の表情から」と題したトークセッションや、日本初のプロバードウオッチャー鳥くんと白神山地自然アドバイザーの菅沼慶太さんによるバードトークショー、日本環境教育フォーラム（東京都）理事長の川嶋直さんによる「よくわかる森とこれからの未来の話」と題した基調講演、大喜利シンポジウムが行われました。

このうち、シンポジウムは川嶋直さんをコーディネーターに、自然や環境に関わりある6人をパネリストに迎え開催されました。町関係者からは秋田白神ガイド協会会長の齋藤栄作美さん、藤里小学校校長の工藤真弘さん、菅沼慶太さんが登壇し「白神山地とはなにか」「魅力を伝えるために必要なこと」などについて、会場一体で考える機会となりました。

